


陸自大分分屯地の弾薬庫新設に反対する住民らが「考える会」結成

白石昌幸 2023年8月12日 10時15分



「NO! おおいた ミサイル」と書いたポスターを掲げる参加者たち=2023年8月11日午後4時43分、大分市玉沢、白石昌幸撮影 

防衛省が陸上自衛隊大分分屯地（大分市 鴛野）に大型弾薬庫を新設する計画を進めていることに対し、反対する住民らが11日、「大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会」を結成した。共同代表には神戸輝夫・大分大名誉教授らが就いた。署名活動や学習会をするなどの運動方針も決めた。

大分分屯地には弾薬庫（通称=敷戸弾薬庫）があり、防衛省は「敵基地攻撃能力（反撃能力）」の保有に向けた大型弾薬庫を計画している。

大分市玉沢の植田公民館で11日に開かれた結成総会には、弾薬庫周辺の住民をはじめとする多くの市民らが集まった。

総会では事務局がこれまでの経緯を説明。防衛省の計画が明らかになり、不安を感じた住民らが6月に準備会を開き、会の結成に向けて地域でビラ配りをしたり、会員集めに取り組んだりしてきたという。

決議も採択し、「なぜ住宅密集地に危険極まりない他国攻撃用の長距離ミサイルを配備するのか。攻撃面でも米日軍事一体化と戦争の危険を一気に拡大する。『戦争はしない・させない』の声をまず大分から、そして全国に広げよう」と訴えた。

神戸共同代表は「もし戦争状態になったら、真っ先に狙われるのは私たち。大分市を二度と戦場にしてはならない。大分市に大型ミサイルの弾薬庫はいらないという運動をしていく」と述べた。（白石昌幸）

有料会員になると会員限定の有料記事もお読みいただけます。

[今すぐ登録（春トクキャンペーン中）](#)

[ログインする](#)

【お得なキャンペーン中】 有料記事読み放題！スタンダードコースが**今なら2カ月間月額100円！** 詳しくは**[こちら](#)**

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.